

## 大塚隆ワールドカップ観戦記

掲示板に大塚隆さん（S44 卒）の観戦記（シンガポールで TV 観戦）が書き込まれていました。旧掲示板閉鎖に伴いここに保存します。

### 【日本 - オーストラリア戦】

W 杯レベルからは程遠い両者の展開。前半見る限り、ここまでの全試合の中では、もっとも退屈。スエーデンと T.トバゴの試合展開がもっとも見ていて面白かった。

前半は日本 1 点先取とはいえ、中村がふわりと意識したキーパー頭越えではない。

キーパー・チャージをとられても致し方ない、ラッキーな点。

まず動いていないので、パスの出どころがない。

切れのある地を這うパスがほとんどない。動きにきびきびした切れがない。皆待っている。ここというときの 5m ダッシュがないから、味方にも意図が伝わらない。

この辺のことを、中田は激を飛ばしたのかもしれない。プレミアリーグを毎日見ているせいか、展開のスピード、パスのスピードの違いが歴然。だから小さいパスしかできない。戦略を感じさせない。

日本の最大の欠点で、ついに改善されないところがまた出た。

相変わらず、FW は（FW のポジションにいる選手は）ボールを受けても、バックスを背負うだけで振り向けない、いや振り向く気がない。はじめからポストプレーしか意識していない。だから状況が変わらないし、突破口にならず、ボールが前後を行ったり来たりするだけで、結果として展開のない退屈な攻撃になる。

ボールを持ったものは、必ず自分で仕掛け、プレーする意を見せなければ。そうすることで DF をひきつけ、空きスペースを作り、利用する。それができないから、ネットワークに変化が生まれにくい。

練習、訓練でというより選手自身の個性に依存する領域。

ボールをもち込んでもペナルティーエリアでも、まだパス先を探している。当方が体制を整えるのを待てば、相手も体制を整える時間が生まれる。シュートはタイミングが勝負。体制を整えられる前に、無理な体勢でシュートする、で

きるかが勝負。日本にはストライカーはいるが、釜本を超えるゴールゲッターがいまだにいない、とのクラマーさんの発言は深い。シュートを打てば、はじかれてもそのこぼれ球には双方体制はできていない。そこを突き、決められるかどうかは気迫。

高原は、少しその気があるが、ひきつけた後のパスがまずい。流れを妨げる。後半 30 分、2 人のバックスを引きつけても、左を走る柳沢の後ろにパスする奴があるか！というのは高原がかわいそうかも。受けるべき柳沢のポジションが悪い。自分のサイドのバックスの影にはボールを出せないことを併走しているときに気づいてくれ、近すぎる。併走するならずと離れ可能性の領域を広げなきゃ。柳沢は華麗なプレーにつながる可能性のある選手と評価されているが、この気迫に欠け、ここぞという時のプレーができない。見ていていつも感じるのは学習効果の希薄な事。大黒はぎこちないが、気迫は世界で通用する。

川口のキックは勢いが無い。ふわりとあがるボールばかりで、攻撃の端緒となるべきキックが、双方イーブンのボールとなって落下する。タッチを割るキックが多すぎる。中田のロングパスも切れなく、タッチに深く蹴るだけで、タッチを直接割るのみ。

転倒者が多すぎる。

オーストラリアは、欧州各国のような技巧がない。あるのは豪州ラグビー風土の激しい体力主体。15 分もあればわかるはずだが、同じようにぶつかり合う。身のこなしがないから足を引っ掛けられる。こういう相手には、接触を避けた早目のパスワークが有効のはずだが、その意図が一度も見られない。試合中の学習能力の欠如か、モード切替の視野の欠如か、チーム連帯感の欠如か。

審判の癖を読んでいない。どういうプレーに不快感があるか、タイミングをどこで判断しているか読まなければ。

以上は、ほとんどが前半の印象。

後半大きな違いは見られない。

入れられた一点はお粗末。守備の連携がばらばら。

87 分の福西のシュートはあれど、そこから 2 点目までは全くなすすべなし。3 点目しかるべくして入った。まあ、当方も 2 点目をとりに行く意識があったからでしょうが。

4年間は何であったか。メンタルタフネスの欠如か、との印象。中田の存在も希薄でした。一人一人の個性もチームワークも、全く表現されない、受身の、浮いた印象の試合。ここまではばらばらなのは、裏で何があったのか？

観戦中の生感想でした。

### 【日本ークロアチア戦】

一連の第二ゲームシリーズの中では、アルゼンチン×セルビアに次ぐ退屈試合になりましたね。暑さありとはいえ、プロなのですから。今後の日本サッカーが世界から侮られるきっかけとならぬことを祈るばかり。

ガーナの気迫あふれる敏捷性に支えられた個人プレイと、機動性に惚れ惚れした直後だけに、世界に気迫のなさをアピールしてしまいました。点を入れる意思のない日本。自分からボールを持って戦う闘争心のない日本選手。自ら組み立てられないイマジネーションの欠落。二試合続けてですから、印象を払拭することは当分難しくなりました。

アナウンサーが、最後には同情と悲鳴の解説になってしまいました。

7分 柳沢。自分が端にいて、二人のボックスを目の前に見通していながらオフサイドする。周りが見えていない、おーいダイジョーブかい。

中村にイラつくのは、技量に頼り過ぎること。テクニックではずすのはよいが、自分のエリア内での体勢確保ばかりでなく、全体のリズムを作る側に回るか、自ら切り開き、突っ込んでいってほしい。特に変化のない展開に終始している時は。

中盤から数的優位を確保することが意識にありすぎて、誰も突っかけて行かないから、自陣のネットワークにバリエーションが生まれず、崩さず、脅威がないから相手は守りやすい。見ていてワクワクしない。敵もハラハラしないだろう。

シュートをしなければ点は入らない。

ガードされても、ブロックされても、打てば脇やら、股の下やら、当たって方向を変えるし、キーパーは準備できない。ハンドを誘うことだってある。ほとんどのゴールは打つからこそ。まず打てよ！

ポルトガルのデコの華麗なロングシュートも、日本人から見ればブロックされているように見えるだろう。ほんの隙間しかない。もっともそこをつけるだけのコントロールがあるともいえるが、日本のシュートにそこまでのコントロールがないとしたら勿怪の幸い。狙う必要もなく、偶然性に依存するだけ確率も上がるというもの。

体勢確保するだろうとの判断を裏切るタイミングで無理承知でシュートしなきゃ。アウトサイドキックのシュートが入りやすいのは、直接だったりタイミングが早いから。

22分 PK 失敗は儲け。そろそろ危ない。

今大会の審判方針は、故意性の有無より結果で反則をとの傾向を感じる。やや疑わしい笛が多い。審判はプレイヤー出身が少ないから、外見とタイミングで決める傾向が強いものだが。W杯の審判の経歴は知らないが。

26分 サントスのロングシュートは打っただけで、タイミングの必然がない。彼のパワーではちょっと無理か。

28分 19番ニココバチのシュートには、体重に乗り自信があふれている。

やはりパスのスピードに緩急の変化がなく、相手に脅威にならないほどのろい。パスワークに連携がないのは悲しい、いつも出されてから動く。次へ次への展開がイメージされていないようだ。

29分 小笠原のシュートはタイミングよく、脅威となる。これが続けば相手は早めに寄せてくるから、裏をつける。チャンスには待たずにどんどん打つと相手に脅威。

31分 柳沢の軽さ、踏ん張りの無さが幸いして、引き倒されてイエローカード。相手のボックスの背が高いのだから、中村はむしろ一発を狙うべきだろう。

川口得意ののどかなバックパスのイレギュラーバウンド、前代見聞のトラップミス。でもキーパーがゴールを背にして足で処理する迂闊、それもアウトで。気の緩み、基本の基本じゃなかったか。

やはりトラップ時に振り向かない日本。これも基本中の基本。世界レベルの出場国の中でも、悲しいかなこれは日本だけ。長年改まらないところを見ると、

代表もコーチ陣も気づいてないのでしょうか。ここが展開の遅れの原因と思うのですがね。

36分 シュート、やはり中田はタイミングを逃さない。でも苛立ちからかも。

37分 サントスのロング。彼には跳ね返りがないとパウ-不足。

39分 バックのクリアーが攻撃につながらないどころか、近場のパスに終始し、ボールをとられクラスニッチにシュートされる。

冷静な、中立解説しているアナウンサーがついに、また、と同情と悲壮感の声を上げた。一瞬、私人に戻った発言でした。そろそろ、前半最後に入れられるんじゃないか、と不安。高原はどこに行った？

45分 せっかくの中村のリカバーの一発ロングパスを、かかると引っ掛ける柳沢。やはりこれが柳沢なんだなあ。走れば前しか見ていないし、振り返れば前に振り向けない。

クロアチアのタイムアップ寸前のカウンターの速さ

後半

46分 フリーキック。壁成功。

高原の足が遅くなったようで、切れ味がない。

フリーキックの際、片手でボールを上から握るとは、でかいクロアチア。日本の攻めには流れなく、クロアチアのカウンターには流れがある。中村が元気な間に、中田、中村、小笠原、小野のラインに大黒を入れてくれ。

51分 最大のチャンスはずす柳沢、足が逆だろ。近い右のアウトでの方向を変えるシュートはキミには無理。ゆとりあるセンタリングなんだから、タイミング合わせての左のインサイドに当てるだけ。ゴール左半分ガラアキなんだから、もう完全なオトボケ。それを使い続けるジーコが、いつもわからん。

54分 コバチのシュートはずれは幸運のみ。一発の流れでここまで持ってくる。

55分 中田しか打たないのか、打てないのか？

56分 持ちすぎの加地、そりゃつかまるわ。相変わらず球離れの悪い日本。守りが楽。

58分 クロアチア コーナー。危ないぞ。

ついに、アナウンサーの気が気じゃない同情の叫びが始まる。  
いつもクールなのに。

60分 稲本の突っ込み。高原はフリー、周りが見えてない。ようやく柳沢交代  
遅い。玉田どう出る？

65分 バビッチ ロングドリブル、ついに疲れて自滅。

70分 中村交代せよ、もうだめ。足が出ない。小野を早く出せ。手遅れになる。

71分 初めてたてのリズム。打たないなあ。

74分 稲本のロング。疲れているならどんどんロング打て。持って行くよりい  
い。

75分 アレックスのペナルティエリア内の決定的なクリアミス。また。中村は  
もう動けない。

玉田 なぜ自分でシュートしない。追いかけてボールのキックミスとは情けなし。

アナウンサー、ボールをとっても反撃もできず、立ち止まってパス先を探す日  
本に、同情を通り越し、さすがにあきれている。集中心、闘争心の欠落に気が  
滅入る。クロアチアも詰めには詰めるが、決め手のなさに救われているだけ。

83分 またもや中田のロングパスはタッチへ外れる。疲れたか。

85分 大黒に交代、遅過ぎる。ついに中田の精度も落ちた。小野はまだか。

87分 クロアチア、コーナー。ミスばかりで助かるけれど。

88分 せっかくの右からのセンタリングに、誰も詰めてない。アレックスの返  
しは

シュートかパスなのか。

賭けに出ない、誰も詰めない日本に、ついにアナウンサーが悲鳴を上げ、あき  
れ返る。このアナウンスが世界に流れている。ああ、恥ずかし。ここに来て、  
まだ中盤でバックパスする日本。スローパスしかできない日本。

90分 自分から審判にぶつかる玉田。周りを見るのは大切ながら、まずは突進  
先ぐらい感じてくださいね。

笛。ほっとする寂しさ。

音楽のレベルでいうなら、ジャズはまだ無理。

一人一人はそれなりの楽団から声はかかるし、演奏も忠実にできそうながら、確立したジャズミュージックをフォローすることはできるレベルでも、セッション組んで自由なジャズはまだまだかな。イマジネーションに乏しくて、楽譜がないとだめというところでしょうか。

大塚 隆